

吹田民主商工会 いんぷお めくしよん

吹田市川園町20-1
TEL (06) 63833-2211
FAX (06) 63821-8160
http://www.suita-minsyou.com
suita-ms@jasmine.ocn.ne.jp

毎週木曜日の
昼2時・夜7時
なんでも相談会

あい川支部の丸橋さんは、200筆近い署名を集めてい
ます。お話を聞かせて頂きました。

戦争は絶対に反対！この署名はがんば らなあかん

相川あん鍼治療院 丸橋さん



「戦争反対」、これはいっ
も思っていました。こどもの
頃、おばさんに満州での出来
事を聞いて衝撃を受けました。
こどもを抱っこしているおば
さんが刀で切りつけられ、こ
どもは即死、おばさんの腕も
同時に切り落とされました。
母からも、私がまだお腹の中
にいる時に空襲を受けて、鉄
砲玉の嵐の中を逃げ惑ったと

いう話を聞きました。「何で、戦争に反対せえへんかった
ん？」と聞いても、その時は応えてくれませんでした。

私も成長していろんな運動に参加して学んでいくうち
に、戦時中は反対したくてもできなかったというところがわ
かりました。今の時代は違います。はっきりと「戦争はあ
かん」と言えます。私たちはそういう時代に生きています。
私のこどもは障害を持っています。PTAの役員をして
いる時に盲学校の90年の歴史をふりかえる取り組みもし
ました。戦争中、障害者は「こくつぶし」「非国民」と言
われ、とてもつらい思いをしていたことがわかりました。
もちろん、障害者であってもなくても、母親としてこども

を戦場に送りたくはありません。人を人として扱わない戦
争は許せません。収支内訳書返還行動で、西尾常務理事の
お話を聞いて「これは、大変なことになる」と思いました。
マイナンバーで国民の財産が国家に監視され、弱いものか
らお金を吸い上げる仕組みが強められる。戦争法で戦争を
できる国にして、戦費調達に消費税とマイナンバーでしぼ
り取る。明らかに戦争への道です。手にした署名用紙は「戦
争法案」と「マイナンバー」がセットになっていたので「こ
の署名は、頑張らなあかん」と思いました。
まず、職場の患者さんに声をかけ、日の出商店街も全部訪
問しました。近所の方や、友人、知人にも声をかけました。
初めて見る警備員のおっちゃんや、こどもを抱っこして歩
いている若いお母さんにも声をかけました。その場で署名
してもらったり、預けておいて取りに行ったりいろいろで
す。こぼと保育園や相川診療所、いのこの里など、知り合
いの団体にも預けました。90歳のおじいちゃんや「自分
も戦争に行つた。絶対だめだ。」、また、患者さんは「私
の身内も戦争で亡くなった。」など、つらい経験もお聞き
しました。

私には、15歳と11歳の孫もいます。この子たちを戦場
に送りたくないという気持ちですが、今の私を支えています。
いま若者や若いお母さんたちも立ち上がっていますが、
「しんぶん赤旗」にしか載っていません。ぜひみんなに知
らせていきたい。今の大人が行動をしたことを、後の世代
誇れるようにしましょう。憲法違反の戦争法案は廃案にし
ましょう。まだまだこれからです。みなさん、ご一緒にが
んばりましょう。

やっぱり班建設が大切と実感

大商連一泊拡大理事会に参加して

会長 工藤 芳昭

7月25日・26日の両日、須磨で行なわれ参加してきま
した。来年5月の全商連大阪総会・同共済総会に向けて
の拡大や倉敷民商弾圧事件への対応、また戦争法案・マイ
ナンバー制度等、情勢の急激な変化に民商運動の歴史にと
って大切な時期、百名あまりの役員が集まって2日間に
わたり意見交換をいたしました。

1日目の記念講演では鶴見裕策弁護士が「納税者の権
利を守り進める闘いと倉敷民商事件」のお話をされました。
民商の裁判闘争の歴史を示された上で憲法を正しく学ん
でいくことの重要性を強調され、倉敷民商事件での大阪の
会への賛同者をいかに大きくすることが大事で期待して
いるとも話されました。大商連では「倉敷民商3人の無
罪を勝ち取る大阪の会」の結成総会が8月27日夜7時か
ら開かれますので、吹田からでもできるだけ多くの会員さ
んが参加していただけるようお願いいたします。

夜の懇親会ではあと1ヶ月で8年連続の読者常在拡大
が達成するというところで、司会者から一番最初に発言を求
められ、このプレッシャーからそろそろ解放させていた
きたいと答えましたが、「このところの班会や集会、学習
会で皆さんにお願いしている戦争法案とマイナンバー制
度の反対署名が一際目立ち、大阪全体の3割近くを集め
ているのは、役員さんや会員さんの皆さんの協力で運動が
すすめられているからだ」と強調しておきました。

分散会では「来年の全商連総会を現勢以上の会員数で迎
えよう」との目標を持って、各民商が秋から春の運動の拡
大をイメージしながらどのような動きを取って行くのが
良いかを話し合いました。色々な意見が出ていましたが、
結局は吹田が昨年から取り組んでいる班を中心とした会
員と会って話す機会を、いかに多く作って行くかに関わっ
ていると思います。役員、事務局が連携を取りながら班会
に力を注いでいきましょう。またできるだけ多くの会員さ
んとコミュニケーションが取れるように努力することが
大事だと思います。

お買い物は地元市場商店街で。商工業者の繁栄は市民と共におい！